

スポーツボランティアにおける心理学的エスノグラフィー  
谷口明日香（スポーツ学研究科 競技スポーツ系 スポーツ情報戦略分野）

主査：豊田則成（指導教員） 副査：林 綾子, 石井 智

Psychological ethnography in sports volunteers

Asuka Taniguchi

キーワード：スポーツボランティア，事業の形成期，質的研究，エスノグラフィー

Keyword：Sports Volunteers, Business formation period, Qualitative research, Ethnography

### 【緒言】

本研究の関心事は、スポーツボランティアに関わる社会的相互作用の変容について質的に検討することにある。

したがって本研究では、「ボランティアとその事業の運営スタッフとスポーツボランティアを取り巻く社会がどのように関わっていたのか」というリサーチ・クエスチョン（Research Question：以下、RQ と称す）を設定し、発展継承可能で有益な仮説的知見を導き出し、スポーツボランティアの現場への提言をなすことを目的とする。

### 【方法】

**調査対象**：スポーツボランティア事業に関わる事象であり、ボランティアと事業の運営スタッフとそれらを取り巻く社会との相互作用である。なお、調査開始時、本スポーツボランティア事業は、事業の立ち上げ段階にあり、この事業の形成期における立ち上げに携わる人々の相互作用に着目した。

**調査期間**：20XX年8月～20XX+1年6月までの間、計81回フィールドワークを実施。

**調査方法**：スポーツボランティア事業に関わる人々を特定の文化を持つ集団とみなし、この集団の中で何が起こっているかを理解するためにエスノグラフィーを行った。そして、スポーツボランティア事業における事象を観察し、記述したものを観察データとした。

**分析方法**：得られた観察データをもとに質的研究法の代表手法の1つである修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ（Modified Grounded Theory Approach：木下，2003）を参考に分析を行った。

### 【結果と考察】

分析の結果から、「ボランティアとその事業の運営スタッフとスポーツボランティアを取り巻く社会がどのように関わっていたのか」というRQに対し、「①ボランティアに対する表面的な関わりと、②スポーツ現場とのズレが広がりから、ボランティアとスポーツボランティアを取り巻く社会の両者に③関わることを不安に感じるが、両者に関わりながら④現場の理解を試みることで、⑤ボランティアの活動環境を重視するようになり、これらを繰り返すことで、⑥地域におけるスポーツボランティアへの理解が深まる」というプロセスでスポーツボランティア事業において事業の取り組みを行うという仮説的知見を導き出した。

### 【総括】

上記のような考察から、ボランティアと事業の運営スタッフとスポーツボランティアを取り巻く社会が関わりを広げ、集約するというそれぞれが独立した存在であったが、関わりつつも統制するというように互いに作用していくという2つの段階で事業を展開し、ボランティア文化の定着と地域にスポーツ文化を醸成することができることを導き出した。

以下の3点をスポーツボランティアの現場への提言とする。

- 1) 事業の立ち上げ段階においては、横方向への関わりを広げていくことが重要である。
- 2) ボランティアの声に寄り添うことが事業の発展に繋がることを理解しておく。
- 3) 両者への支援的な立場が、スポーツボランティア事業を通じた社会への貢献に繋がる。

RQ: ボランティアとその事業の運営スタッフとスポーツボランティアを取り巻く社会がどのように関わっているのか

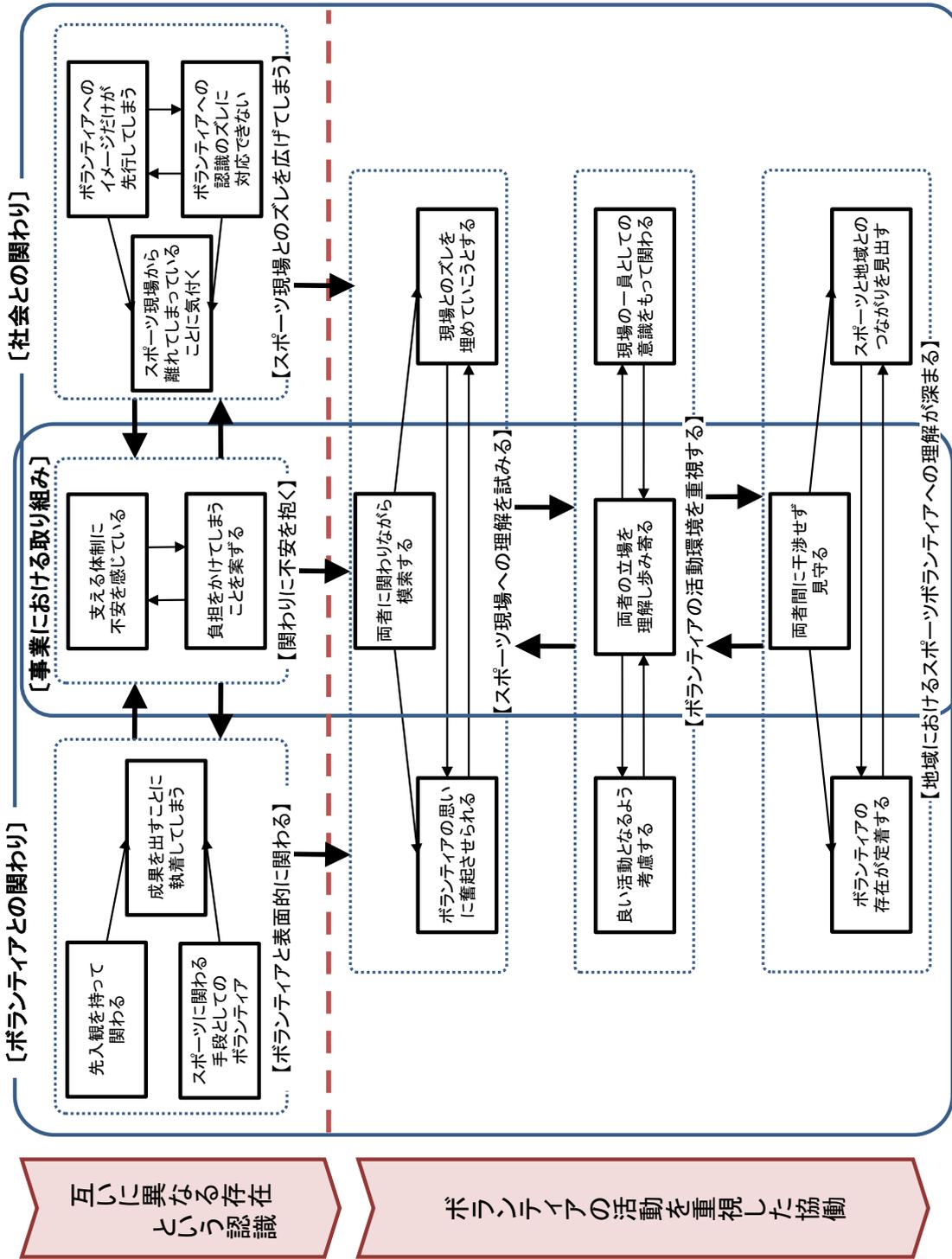


図. スポーツボランティアに関わる社会的相互作用の変容プロセス